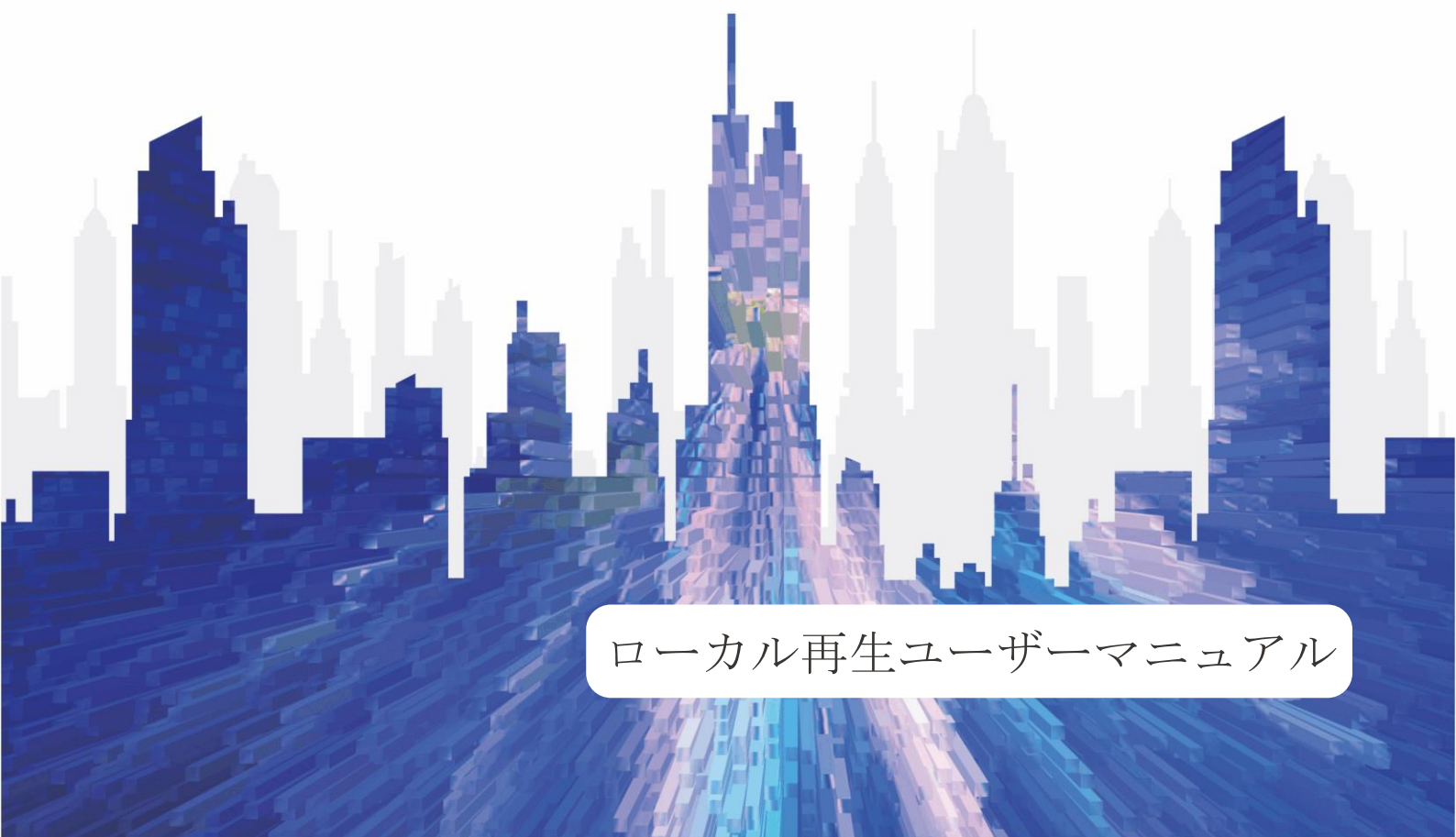


# ViPlex Express



ローカル再生ユーザーマニュアル

# 目次

目次 .....	1
1 ソフトウェアのご案内 .....	1
2 クイックガイド .....	3
2.1 PC の準備 .....	3
2.2 ソフトウェアのインストール .....	3
2.3 PC 構成項目のチェック .....	3
2.3.1 Windows 自動アップデート .....	4
2.3.2 ファイアウォール .....	4
2.3.3 画面オフとスリープ .....	4
2.3.4 拡大縮小と複数のディスプレイ .....	5
2.3.5 UAC .....	5
2.3.6 Antimalware Service Executable .....	6
2.3.7 Superfetch .....	7
2.4 ディスプレイへの接続 .....	7
2.5 動作モードの選択 .....	8
2.6 スケジュールの作成 .....	8
2.7 スケジュールの再生 .....	10
3 スケジュール管理 .....	10
3.1 スケジュールの作成 .....	10
3.1.1 一般スクリーンのスケジュール作成 .....	11
3.1.2 超幅広スクリーンスケジュールの作成 .....	14
3.2 スケジュールの再生 .....	15
3.3 画面のモニタリング .....	16
4 再生管理 .....	16
4.1 再生ウィンドウの設定 .....	16
4.2 再生ウィンドウの表示・非表示 .....	16
5 再生ログ .....	17
5.1 再生ログの検索 .....	17
5.2 再生ログのエクスポート .....	17
6 システム設定 .....	19
6.1 言語切替 .....	19
6.2 動作モードの切替 .....	19
6.3 選好設定 .....	19
6.3.1 起動して再生 .....	19
6.3.2 再生ウィンドウを表示・非表示にするショートカットの設定 .....	19
6.4 ユーザーマニュアルの表示 .....	19
6.5 ソフトウェアアップデートの検出 .....	19
6.6 ソフトウェア情報の表示 .....	20
7 FAQ .....	21
7.1 ファイアウォールインバウンドの設定ルール .....	21
7.2 ローカル再生に対応のビデオ形式 .....	23
7.3 一般スクリーンの折ウィンドウ制限 .....	23
7.4 超幅広スクリーンの再生パラメータ制限 .....	24

# 1 ソフトウェアのご案内

ViPlex Express はスケジュールを作成し LED ディスプレイ・LCD ディスプレイで再生を行う Windows オペレーションシステム向け PC 側ディスプレイ情報配信管理システムです。非同期再生モードの場合は、マルチメディアプレイヤーの管理もできます。本文ではローカル再生モードの機能と操作についてご説明いたします。

ViPlex Express はクラウドに関するソリューションを構成する一部です。ローカル再生の起動画面において左側のメニューから「クラウドプラットフォーム」を選択し、関連情報を表示できます。

## 2つの動作モード

ViPlex Express は動作モードを 2 つ搭載しており、利用するシーンに応じて必要とするモードに切り替えることができます。

### + ローカル再生

ViPlex Express で再生するスケジュールを、ディスプレイではリアルタイムに同期表示を行って同期再生するシーンに利用します。

再生ウィンドウは PC の拡張スクリーンにおいて画面モニタリングを行ってメインディスプレイで現在再生している様子を確認できます。

### + 非同期再生

ViPlex Express はスケジュールをマルチメディアプレイヤーに複数送信し、これをマルチメディアプレイヤーによってローカルに保存してプレイプランに沿って再生を行い、マルチメディアプレイヤーがディスプレイをローディングするシーンに利用します。

## プロスケジュールの作成

ViPlex Express はプロスケジュールの作成機能を搭載しており、必要に応じて豊かかつスケジューリングの複雑なスケジュールを作成できます。

### + 複数ページ

スケジュール毎にページを複数追加できます。上から下へと順次再生されます。

### + 柔軟性のあるレイアウト

ページを追加時にシステムテンプレートを直接に利用することができるのはもちろん、テンプレートのカスタマイズも可能です。テンプレートではウィンドウの数や座標、幅に対してフレキシブルな設定を行うことができます。

### + 様々なコンテンツ

ページでは共通ウィンドウや折ウィンドウ、Office ファイル、画像、ビデオ、GIF、テキスト、ブリリアントワード、デジタル時計、アナログ時計、タイマー、天気、RSS、ストリーミングメディア、ウェブページの追加に対応します。

### + 様々なプロパティ

コンテンツはタイプ毎に豊富なプロパティを持つので、様々なニーズを満たしてバラエティに富んだスケジュールを仕上げる事が出来ます。

### + 任意なスケジューリング

ページ毎に再生する時間帯とサイクルの設定が行えます。現在ページのスケジューリングは他のページに複数利用できます。複数ページの時間帯が重なった場合は、上から下へと順次再生されます。

### + クイックプレビュー

プレビューボタンを押して現在画面をすぐにプレビューできます。他のページに切り替えるときはウィンドウが速やかに更新されます。

## 端末全体の管理

ViPlex Express は非同期再生モードの場合は、マルチメディアプレイヤーに対して輝度調整やタイマー管理、フォント管理、端末アップグレード、ビデオソース切替、スクリーン状態のコントロール、再生ログの検索、ネットワーク構成、無線周波数管理など包括的に管理できます。

## 2 クイックガイド

### 2.1 PC の準備

PC 最低動作環境：

- OS : Windows 7 SP1 64 bit
- CPU : i5
- メモリー : 4GB
- ハードディスク : 60GB

### 2.2 ソフトウェアのインストール

#### 前提条件

- Framework 4.6.x のインストールをされていること
- Visual C++ 2017 公式版動作時の必要なコンポーネントをインストールしていること。
- ViPlex Express インストールパッケージを取得していること。

#### 取得パス

<https://www.vnnox.com/single/download.html>

#### インストール方法

インストールファイルをダブルクリックし、ガイド画面に沿って ViPlex Express のインストールを完了させます。

### 2.3 PC 構成項目のチェック

表 2-1 に示すように、安定した再生を行うには、Windows システムの構成項目をチェックしてください。対象状態に一致しない構成項目は変更を行ってください。本章は Windows 10 を例としてご説明いたします。

表2-1 構成項目

構成項目	対象状態
Windows 自動アップデート	オフ
ファイアウォール	無効 プログラムの接続を許可 以上何れか一つを満たした場合は OK。
画面オフ	しない
スリープ	しない
拡大縮小	100%
複数のディスプレイ	表示画面を複製する
UAC	無効
Antimalware Service Executable	無効
Superfetch	手動

### 2.3.1 Windows 自動アップデート


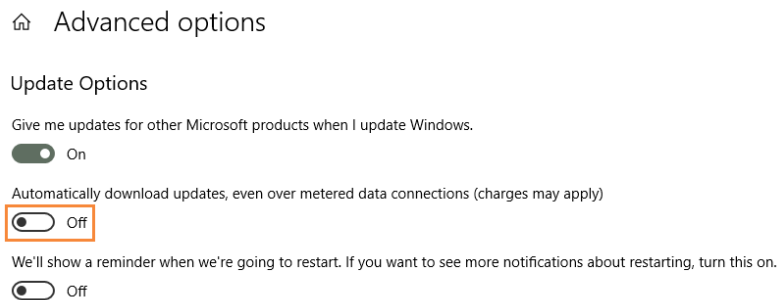

- 手順 1 Windows スタートメニューにある  を開きます。
- 手順 2 「Update & Security」 を選択します。
- 手順 3 「Windows Update」 画面で「Advanced options」をクリックします。
- 手順 4 Windows 自動アップデートをオフにしているかチェックしてください。

図2-1 Windows 自動アップデート

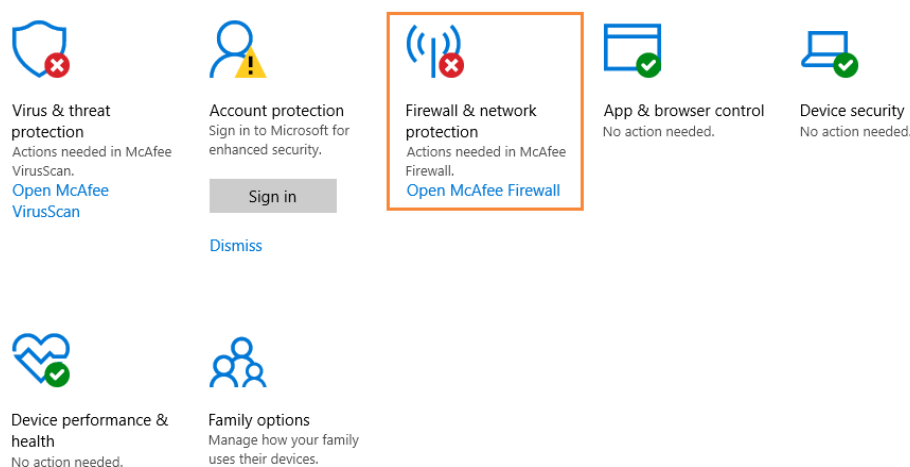


### 2.3.2 ファイアウォール


- 手順 5 Windows スタートメニューにある  をクリックします。
- 手順 6 「Update & Security」 を選択します。
- 手順 7 「Windows Security」 を選択します。
- 手順 8 「Open Windows Defender Security Center」 をクリックします。
- 手順 9 ファイアウォールをオフにしているかチェックします。どうしてもオンにしなければならない場合は、プログラムへの接続を許可することを設定していないかチェックします。

プログラムの接続を許可するように設定する方法は「[7.1 ファイアウォールインバウンドの設定ルール](#)」をご覧ください。

図2-2 ファイアウォール

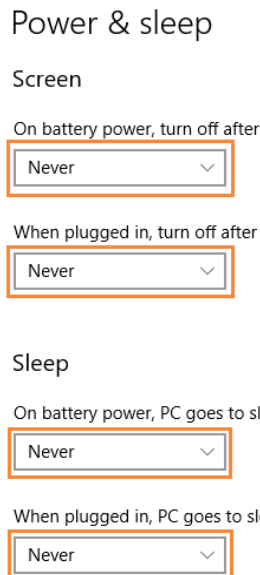


### 2.3.3 画面オフとスリープ

- 手順 5 Windows スタートメニューにある  をクリックします。

- 手順6 「System」を選択します。
- 手順7 「Power & sleep」を選択します。
- 手順8 4つの構成項目を「Never」にしているかチェックします。

図2-2 画面オフとスリープ



### 2.3.4 拡大縮小と複数のディスプレイ


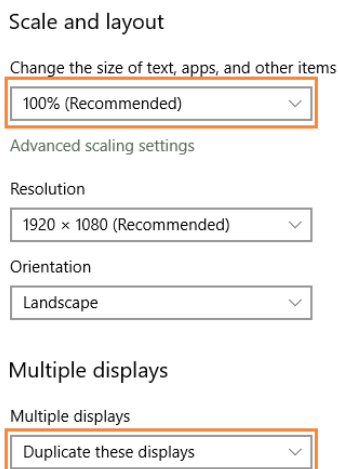

- 手順5 Windows スタートメニューにある  をクリックします。
- 手順6 「System」を選択します。
- 手順7 屏拡大縮小を 100%にしているか、複数のディスプレイを「Duplicate these displays」にしているかチェックします。
- 説明：複数のディスプレイに接続しなければ、複数のディスプレイという構成項目が表示されません。

図2-4 拡大縮小と複数のディスプレイ



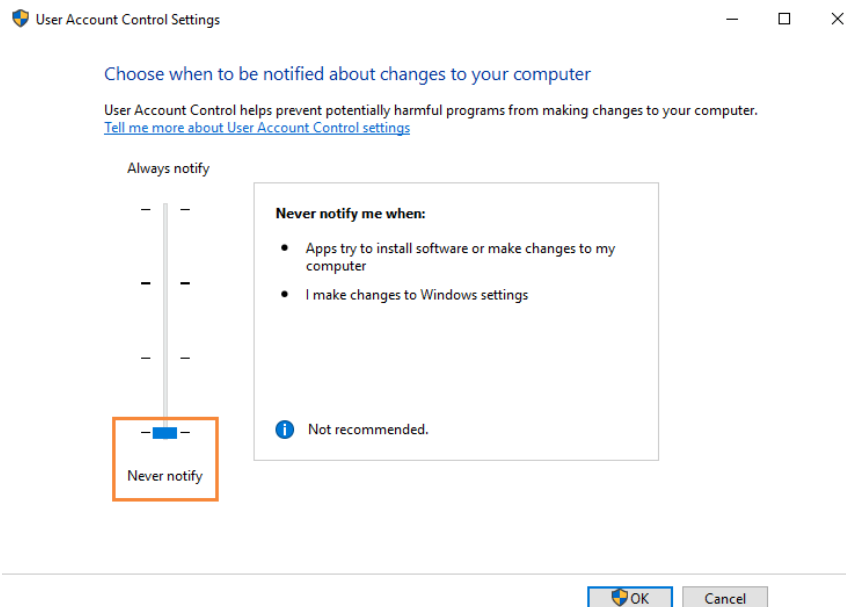
### 2.3.5 UAC

- 手順5 Windows スタートメニューにある  をクリックします。

手順6 検索ボックスに「User Accounts」を入力し、「Change User Account Control Settings」を選択します。

手順7 UACを「Never notify」にしていないかチェックします。

図2-5 UAC



### 2.3.6 Antimalware Service Executable

手順5 「Win+R」キーを押し、ファイル名を指定して実行というウィンドウを開きます。

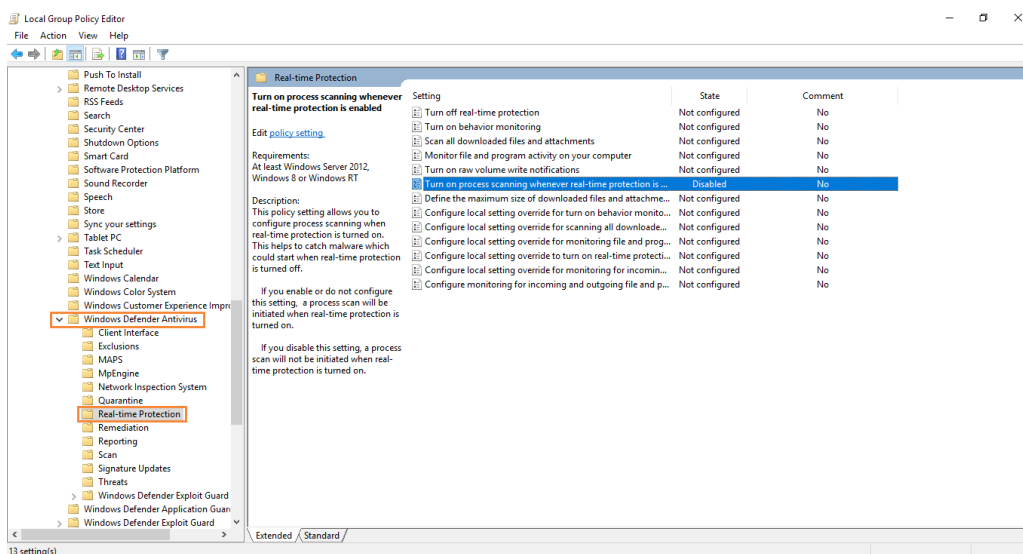
手順6 gpedit.msc コマンドを入力し、「Enter」キーを押し、「Local Group Policy Editor」というダイアログボックスを開きます。

手順7 「Computer Configuration > Administrative Templates > Windows Components > Windows Defender Antivirus」を順次に開きます。

手順8 「Real-time Protection」をクリックします。

手順9 「Turn on process scanning whenever real-time protection is enabled」の状態を「Disabled」にしていないかチェックします。

図2-6 Antimalware service executable





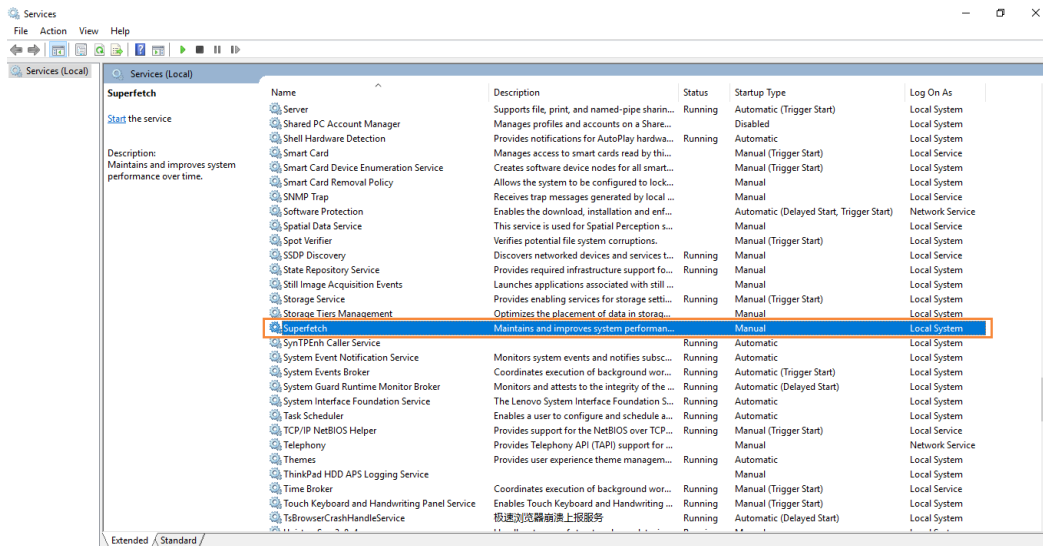
## 2.3.7 Superfetch

手順5 「Win+R」キーを押し、ファイル名を指定して実行というウィンドウを開きます。

手順6 services.msc コマンドを入力し、「Enter」キーを押し、「Services」ダイアログボックスを開きます。

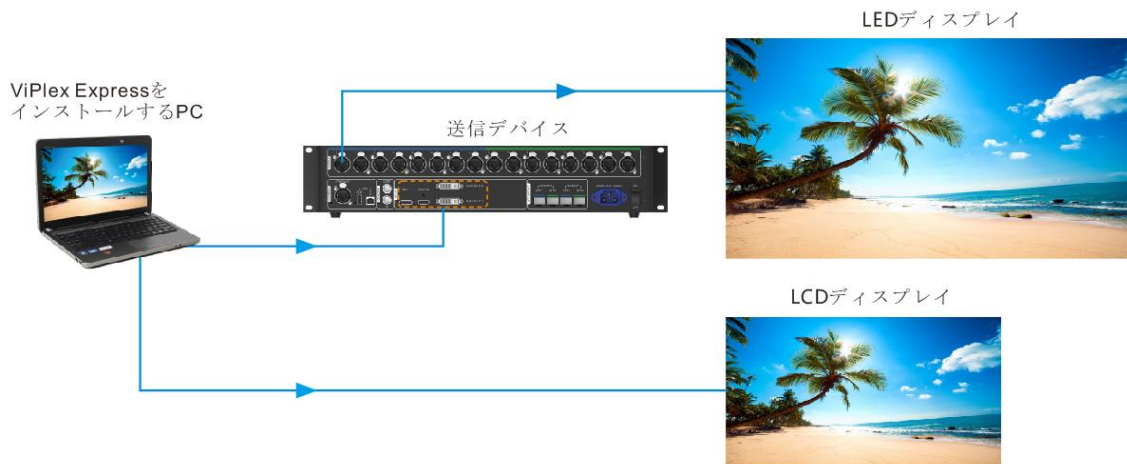
手順7 Superfetch のスタートアップの種類を「Manual」にしているかチェックします。

図2-7 Superfetch



## 2.4 ディスプレイへの接続

図2-8 ディスプレイへの接続



### ✦ 接続方法 1

ViPlex Express をインストールする PC を送信カードに接続し、LED ディスプレイにビデオソースを与えます。図 2-8 では送信デバイス MCTRL4K が挙げられます。

### ✦ 接続方法 2

ViPlex Express をインストールする PC を LCD ディスプレイに直接接続してビデオソースを与えます。

## 2.5 動作モードの選択

### 初インストール


ViPlex Express を初めてインストール完了後、ソフトウェアを起動すると「モード選択」というダイアログボックスが表示されます。「ローカル再生」を選択し、「今すぐ起動」をクリックします。

図2-9 モードの選択



### その他の状況

すでに ViPlex Express をインストールしているか動作モードを選択した場合は、図 2-9 に示すダイアログボックスが表示されません。ソフトウェアを起動すると非同期再生モードに入る場合は、以下に記述したようにローカル再生モードに切り替えてください。

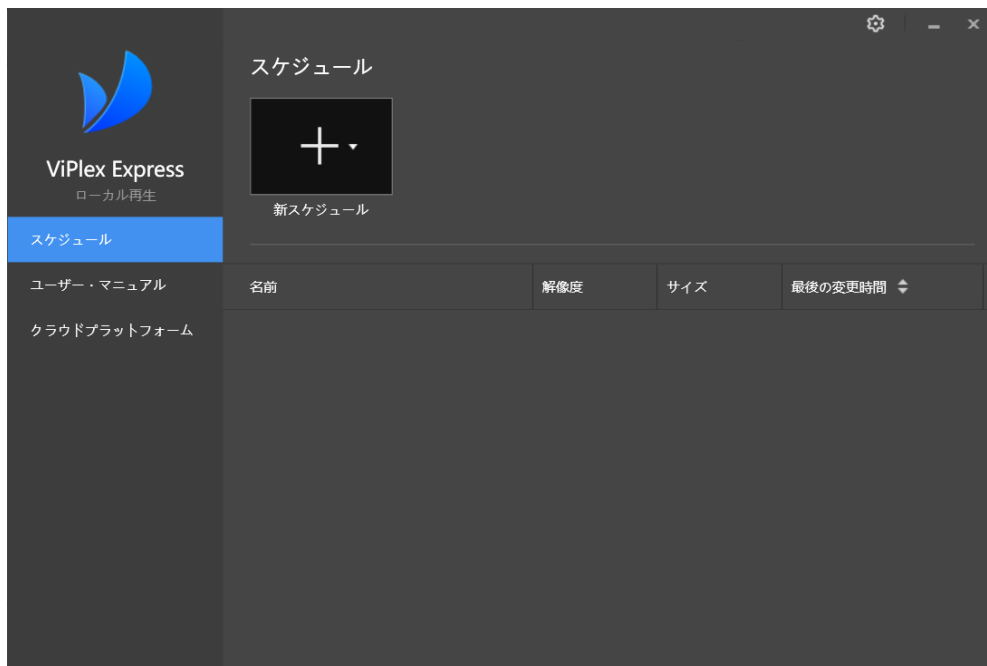
画面の右上から「 > 動作モード > ローカル再生」を選択し、「確定」をクリックします。ソフトウェアを再起動するとローカル再生モードに入ります。

## 2.6 スケジュールの作成

ローカル再生モードのスケジュールデータは更新完了後、非同期再生モードに自動同期されます。

手順 1 ユーザーはローカル再生モードを選択すると、ローカル再生の起動画面に入ります。

図2-10 ローカル再生の起動画面



手順2 **+**をクリックし、「一般スクリーン」か「超幅広スクリーン」を選択します。

- 「一般スクリーン」を選択すると、スケジュールの編集ページに入ります。

スケジュールの編集画面では、メニューバーから「再生ウィンドウ > 再生ウィンドウの設定」を選択し、再生ウィンドウの座標や幅・高さ、最前面へ移動のルールの設定を行います。「デスクトップと同様」にチェックを付けている場合は、再生ウィンドウはデスクトップのサイズと一致します。

図2-11 再生ウィンドウの設定




- 「超幅広スクリーン」を選択し、「スケジュール情報」のダイアログボックスが表示されます。


図2-12 超幅広スケジュール情報




手順3 スケジュール情報を設定し、「確定」をクリックします。

手順4 (任意選択) 画面の右上にあるをクリックし、スケジュールにおける各ページのスケジューリングを表示します。

手順5 (任意選択) 画面の右上にあるをクリックし、現在ページをプレビューします。

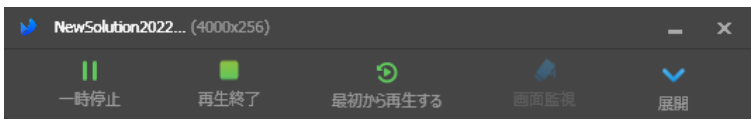
プレビューウィンドウを開いているときも、他のページを選択してプレビューを行うことができます。現在ページに変更があった場合は、をクリックすればプレビューウィンドウを最新の情報に更新できます。






## 2.7 スケジュールの再生

手順5 スケジュールの編集画面において、画面の右上にあるをクリックし、スケジュールを再生します。

手順6 ソフトウェアではスケジュールの編集画面が表示されませんが、再生コントロールバーが表示されます。

図2-2 再生コントロールバー



- : スケジュールを一時停止します。一時停止後、ボタンは「再生」となります。
- : 再生を終了し、スケジュールの編集画面を表示します。
- : スケジュールを最初から再生します。
- : スケジュールの編集画面を展開します。
- : スケジュールの編集画面を収納します。

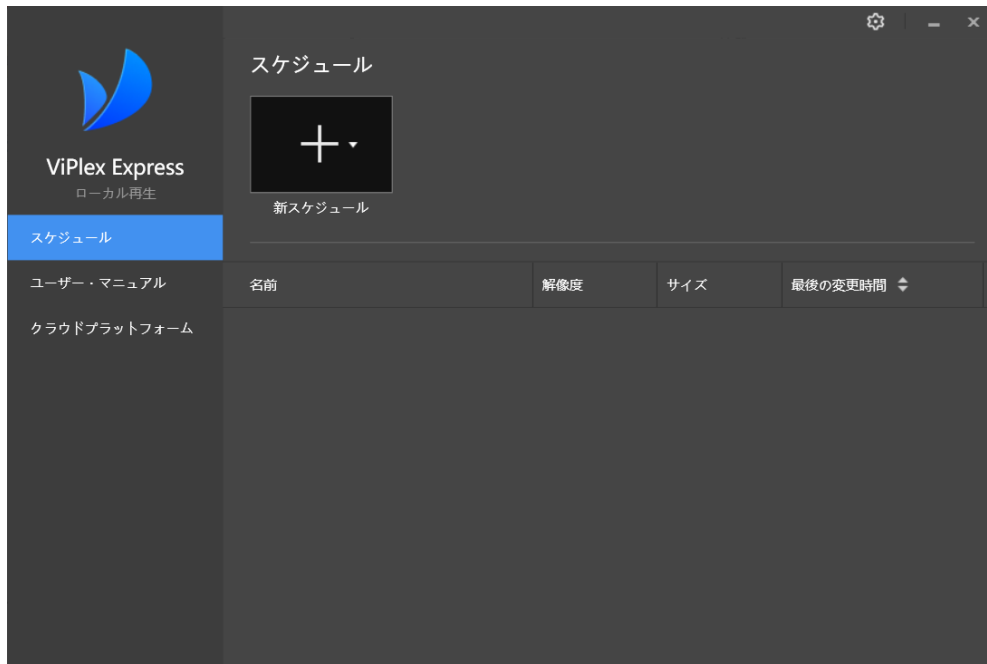
## 3 スケジュール管理

### 3.1 スケジュールの作成

ローカル再生モードを選択すると、ローカル再生の起動画面に入ります。

- 様々なディスプレイに応じて、一般スクリーンのスケジュール新規作成と超幅広スクリーンのスケジュール新規作成に分けられています。
- ローカル再生モードのスケジュールデータは更新完了後、非同期再生モードに自動同期されます。

図3-3 ローカル再生の起動画面



### 3.1.1 一般スクリーンのスケジュール作成

#### 関連情報

- スケジュールにはページが一つか複数含まれ、ページにはコンテンツが一つか複数含まれます。
- ページは上から下へと順次再生されます。

#### 操作手順

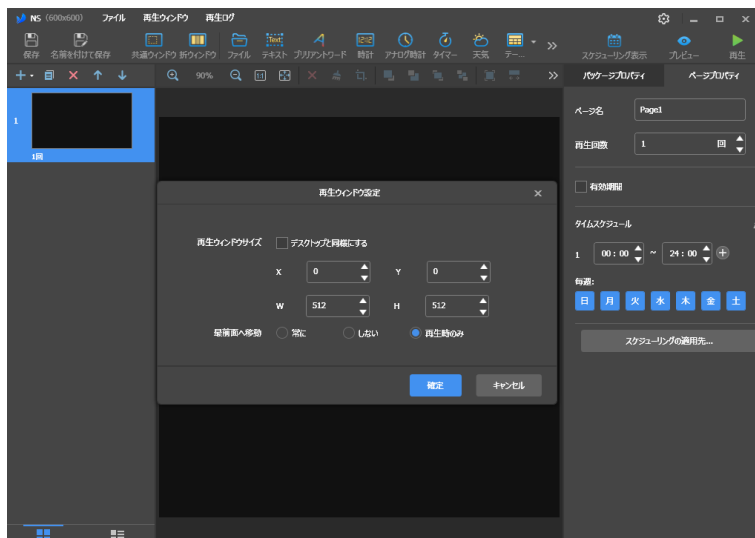
スケジュールを新規作成前にスクリーンの解像度を事前に取得してください。

手順 1 **+** をクリックし、プルダウンメニューから「一般スクリーン」を選択します。

- 初めてローカル再生ページに入った場合は、[図 3-2](#) に示すように、一般スクリーンのスケジュールを新規作成すると、再生ウィンドウの設定を行ってくださいとメッセージが表示されます。

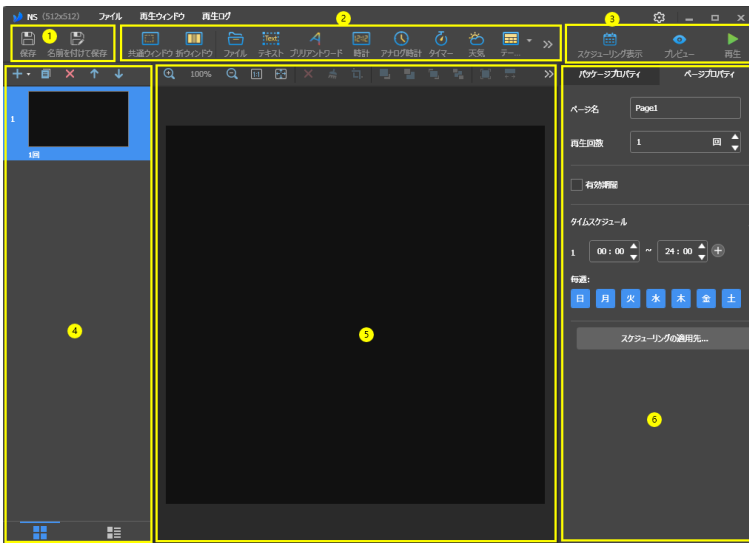
再生ウィンドウサイズとディスプレイ解像度が一致するようにします。

図3-2 再生ウィンドウの設定



- その他の場合は、[図 3-3](#) に示すように、スケジュールの編集画面に入ります。  
再生ウィンドウのサイズと位置を設定して再生ウィンドウを表示・非表示にすることが出来ます。詳細は [4 再生管理](#) を参照。

図3-3 スケジュールの編集画面



編集画面の説明は[表 3-1](#) に示すようです。

表3-1 スケジュール編集画面について

エリア番号	エリア機能	詳細
1	スケジュールを保存するか名前を付けて保存。	スケジュールを保存するか名前を付けて保存するのに使います。
2	コンテンツの追加 クリックしてコンテンツを追加可能	: 共通ウィンドウ
		: 折ウィンドウ
		: ファイル
		: テキスト
		: プリリアントワード
		: デジタル時計
		: アナログ時計
3	スケジュール表示、プレビュー、再生	: タイマー
		: 天気
		: テーブル
4	スケジュールページの編集 ページの追加、コピー、削除及びページ順の調整。 ページは上から下へと再生されます。	: RSS
		: ストリーミングメディア
		: ウェブページ
		: 追加
		: 「ページテンプレート模 板」ダイアログボックスを開き ます。
	: コピー	: 削除
	: ページを一つ上へ移 動します	: ページを一つ下へ移 動します


エリア番号	エリア機能	詳細	
		 : サムネイルビュー (リストではページのサムネイルしか表示されません)	 : リストビュー (リストではページのサムネイル、現在選択されているページにあるコンテンツ名が表示されます。)
5	ページコンテンツの編集	 : 編集エリアの拡大	 : 編集エリアの縮小
		 : オリジナル比率による編集領域の表示	 : 画面サイズによる編集領域のアダプティブ拡縮
		 : 選択されているコンテンツの削除	 : コンテンツをすべてクリア
		 : 画像トリミング	 : 前面にする
		 : 背面にする	 : 最前面にする
		 : 最背面にする	 : 全画面塗りつぶし
		 : 横塗りつぶし	 : 縦位置の充填
		 : 縦位置 上詰め	 : 縦位置 中央揃え
		 : 縦位置 下詰め	 : 横位置 左詰め
		 : 横位置 中央揃え	 : 横位置 右詰め
6	プロパティ編集	<p>パッケージプロパティ、ページプロパティの編集に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>パッケージプロパティ</b> : パッケージとは、ページに追加されたコンテンツのことです。コンテンツによってはプロパティが異なり、パッケージプロパティ編集前に、クリックしてパッケージを選択する必要があります。</li> <li>● <b>ページプロパティ</b> : ページの名前や再生回数、有効日、プレイプランの設定を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 再生回数 : ページの連続再生回数。</li> <li>- 有効日 : チェックをつけると、パラメータ「開始日」と「終了日」が表示されます。スケジュール再生時に期限切れとなったページをスキップします。</li> <li>- タイムスケジュール : ページを再生する時間・サイクル。プレイプランに他のページと時間帯が重なった場合は、ページ順に上から下へと順次再生されます。</li> <li>- スケジュールリングの適用先 : スケジュールリングを他のページに利用し、ページを複数選択して適用することができます。</li> </ul> </li> </ul>	

## 説明


- Excel ファイルを追加時に、行数を 600 かそれ以下に、列数の総幅が A4 横向き用紙の幅かそれ以下にする必要があります。テーブルを作成するときは最初からページレイアウトで A4 サイズの横向きにすることをお勧めします。
- インポートしたい Excel ファイルに対して、セルのフォントカラーと結合の設定を行うことができますが、それ以外のセルのプロパティ表示に対応していません。ご希望がありましたら、画面の上にあるナビバーの「フィードバック」から QR コードを読み取ってください。
- 「RSS、ストリーミングメディア、ウェブページ」コンテンツを追加時に、有効なアドレスを入力する必要があります。
- 「天気」コンテンツを追加時に、端末の天気情報を取得するには、インターネットに接続してください。

- 「折ウィンドウ」のコンテンツ制限の詳細は [7.3 一般スクリーンの折ウィンドウ制限](#) をご覧ください。


手順2 スケジュール編集完了後、「保存」をクリックします。

手順3 (任意選択) 画面の右上にある  をクリックし、スケジュールにおける各ページのスケジューリングを表示します。

手順4 (任意選択) 画面の右上にある  をクリックし、現在ページをプレビューします。

プレビューウィンドウを開いているときも、他のページを選択してプレビューを行うことができます。現在ページに変更があった場合は、 をクリックすればプレビューウィンドウを最新の情報に更新できます。

### 3.1.2 超幅広スクリーンスケジュールの作成

手順1  をクリックし、プルダウンメニューから「超幅広スクリーン」を選択します。

「スケジュール情報」ダイアログボックスが表示されます。

図3-10 超幅広スクリーンのスケジュール情報



図3-11 超高スクリーンのスケジュール情報



手順2 スケジュール名、解像度、方向と折数の設定を行い、「確定」をクリックします。

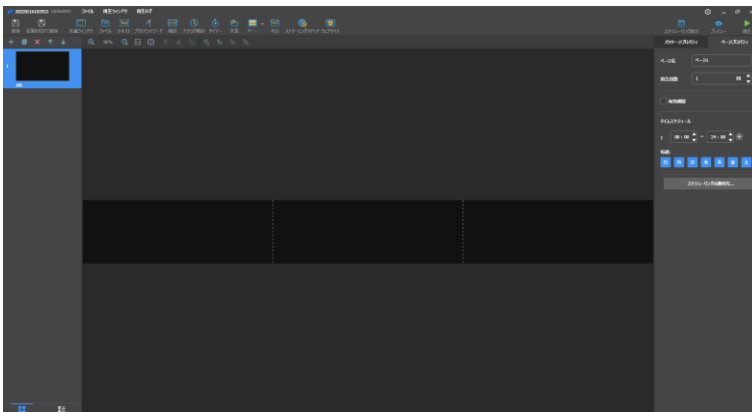
- スケジュール解像度と端末マッピング幅・高さが一致するようにします。  
ここでは、超幅広スクリーンは幅 3000、高さ 384 となり、超高スクリーンは幅 640、高さ 1800 となります。
- 実際に応じて「方向」を設定し、超幅広スクリーンの場合は「水平」、超高スクリーンの場合は「垂直」にしてください。
- 折数は実際のディスプレイ幅・高さとマッピング幅・高さに応じて計算します。

手順3 スケジュールの編集画面において、[図 3-12](#) に示すように、スケジュールの編集を行います。




- ページコンテンツの編集エリアは実際ディスプレイサイズの比率で表示し、折り具合によって分割線を確立します。
- 画像、テキスト、プリリアントワードのみ分割線に置くことができます。

図3-12 超幅広スクリーンのスケジュール編集画面



手順 4 スケジュール編集完了後、「保存」をクリックします。

手順 5 (任意選択) 画面の右上にある  をクリックし、スケジュールにおける各ページのスケジューリングを表示します。

手順 6 (任意選択) 画面の右上にある  をクリックし、現在ページをプレビューします。

プレビューウィンドウはマッピング幅・高さの比率で表示します

#### 注意:

- 超幅広スクリーンは同期再生に非対応です。
- スムーズに再生するために、ビデオと文字を同時に再生することをお勧めしません。

## 3.2 スケジュールの再生


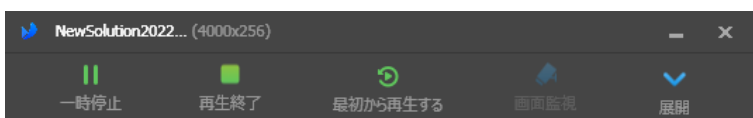





画面の右上にある  をクリックし、スケジュールを再生します。ソフトウェアではスケジュールの編集画面が表示されませんが、再生コントロールバーが表示されます。

図3-13 再生コントロールバー



-  : スケジュールを一時停止します。一時停止後、ボタンは「再生」となります。
-  : 再生を終了し、スケジュールの編集画面を表示します。
-  : スケジュールを最初から再生します。
-  : スケジュールの編集画面を展開します。
-  : スケジュールの編集画面を収納します。

### 3.3 画面のモニタリング


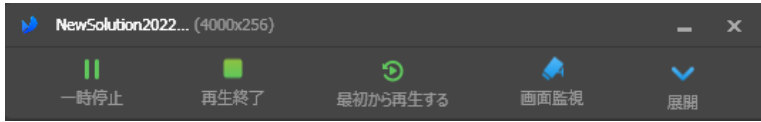
拡張スクリーンを設定して同スクリーンでスケジュールを再生時に、再生コントロールバーにある  をクリックし、メインディスプレイで現在再生している画面に対しモニタリングを行うことができます。

図3-14 画面モニタリング

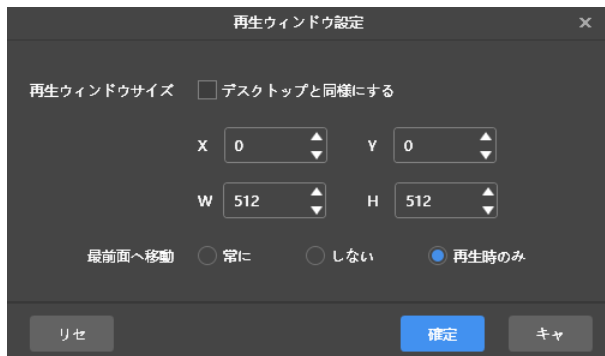


## 4 再生管理

### 4.1 再生ウィンドウの設定


スケジュールの編集画面では、メニューバーから「再生ウィンドウ > 再生ウィンドウ設定」を選択し、再生ウィンドウの座標や幅・高さ、最前面へ移動のルールを設定を行います。「デスクトップと同様にする」にチェックを付けている場合は、再生ウィンドウはデスクトップのサイズと一致します。

図4-3 再生ウィンドウの設定



### 4.2 再生ウィンドウの表示・非表示

- 再生ウィンドウを表示時に、スケジュールの編集画面では、メニューバーから「再生ウィンドウ > 再生ウィンドウを非表示」を選択し、再生ウィンドウを非表示にすることができます。
- 再生ウィンドウを非表示にする時は、スケジュールの編集画面では、メニューバーから「再生ウィンドウ > 再生ウィンドウを表示」を選択し、再生ウィンドウを表示することができます。

再生ウィンドウを表示・非表示にするデフォルトショートカットは「Ctrl+H」です。「 > 選好設定」において変更が行えます。

## 5 再生ログ

### 5.1 再生ログの検索

手順4 スケジュールの編集画面でメニューバーから「再生ログ」を選択します。

図5-2 再生ログ



手順5 時間範囲を設定し、「検索」をクリックします。

当日の再生ログの表示に対応しません。

手順6 検索結果リストで日付をクリックし、再生ログの概要と詳細を表示します。

手順7 (任意選択) 「戻る」をクリックし、検索結果リストに戻ります。

### 5.2 再生ログのエクスポート

手順5 スケジュールの編集画面でメニューバーから「再生ログ」を選択します。

手順6 時間範囲を設定し、「検索」をクリックします。

当日の再生ログの表示に対応しません。

図5-2 検索結果


<input type="checkbox"/>	日付	サイズ
<input type="checkbox"/>	2019-12-26	862B

手順7 エクスポートしたい履歴にチェックを付け、「出力」をクリックします。


手順8 ポップアップされたダイアログボックスから、エクスポートのパスと形式を選択します。

手順9 「確定」をクリックします。


## 6 システム設定

ローカル再生の起動画面とスケジュールの編集画面にある右上からシステム設定の機能アイコン  を選択できます。

### 6.1 言語切替

「 > 言語」を選択し、下の層にあるサブメニューから必要な言語を選択します。

### 6.2 動作モードの切替

「 > 動作モード > 非同期再生」を選択し、非同期再生モードに切り替えます。

### 6.3 選好設定


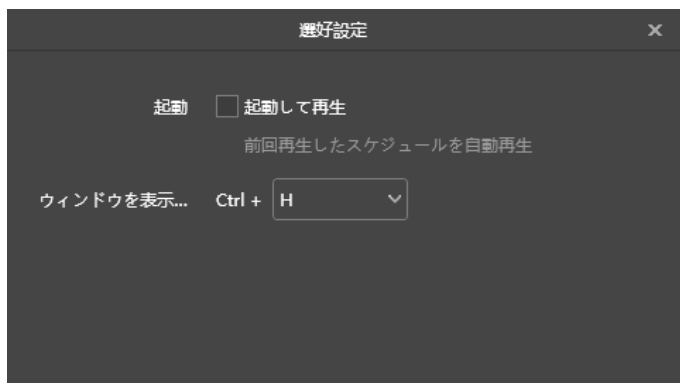
「 > 選好設定」を選択し、「選好設定」ダイアログボックスを開きます。

図6-1 選好設定




#### 6.3.1 起動して再生

「起動して再生」にチェックを付けると、今度起動すると前回再生したスケジュールが自動再生されます。


#### 6.3.2 再生ウィンドウを表示・非表示にするショートカットの設定

プルダウンからアルファベットキーを1つ選択し、「Ctrl」キーと共に再生ウィンドウを表示・非表示にするショートカットを作成します。


### 6.4 ユーザーマニュアルの表示

「 > ユーザー・マニュアル」を選択し、ソフトウェアに付属のユーザーマニュアルを表示します。  
また、ローカル再生の起動画面で左側のメニューから「ユーザー・マニュアル」を選択することもできます。

### 6.5 ソフトウェアアップデートの検出


「 > 更新検出」を選択し、ポップアップされたダイアログボックスでソフトウェアをアップデートできるかどうか確認します。アップデートできる場合は、「ダウンロードしてアップデート」をクリックしてソフトウェアをオンラインアップデートすることができます。

## 6.6 ソフトウェア情報の表示

「 > 当ソフトウェアについて」を選択し、ポップアップされたダイアログボックスでソフトウェアに関する情報を表示します。

## 7 FAQ

### 7.1 ファイアウォールインバウンドの設定ルール

手順 4 Windows スタートメニューにある  をクリックします。

手順 5 「Update & Security」を選択します。

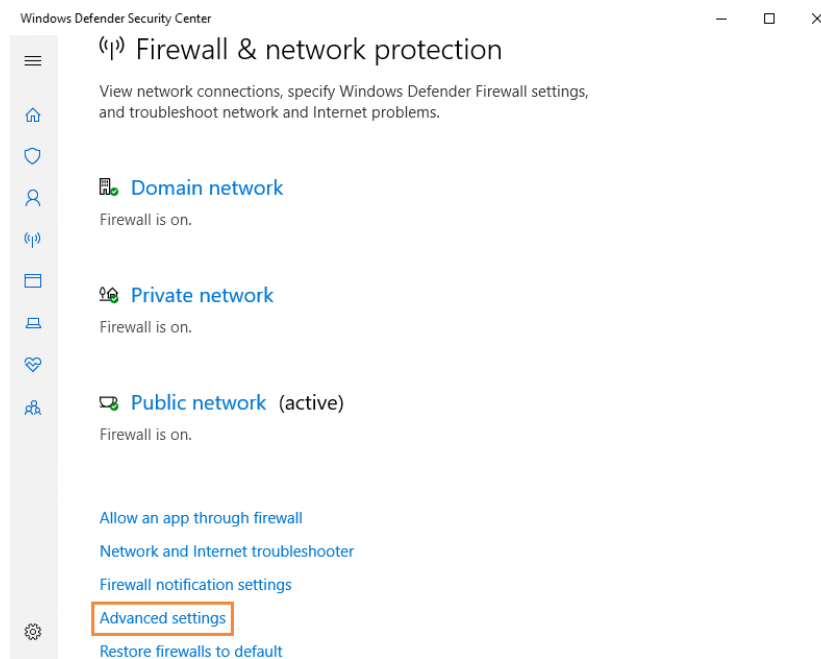
手順 6 「Windows Security」を選択します。

手順 7 「Open Windows Defender Security Center」をクリックします。

手順 8 「Firewall & network protection」をクリックします。

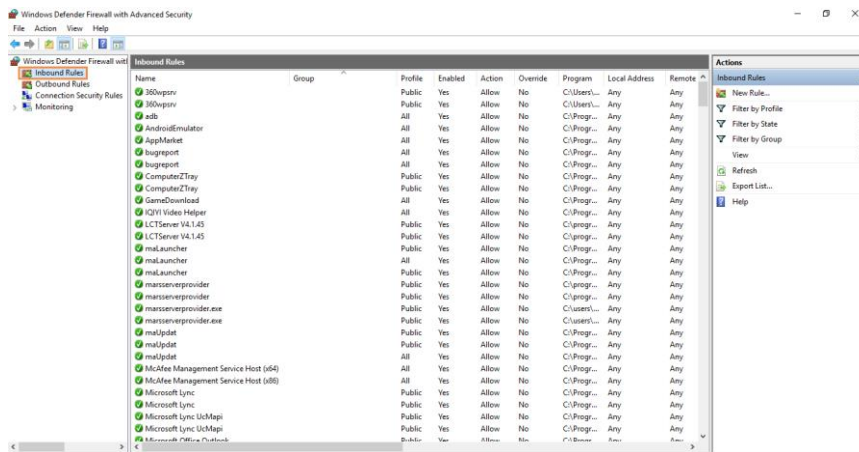
手順 9 「Advanced Settings」をクリック、「Yes」をクリックします。「Windows Defender Firewall with Advanced Security」ダイアログボックスを開きます。

図7-2 詳細設定



手順 10 「Inbound Rules」をクリックします。

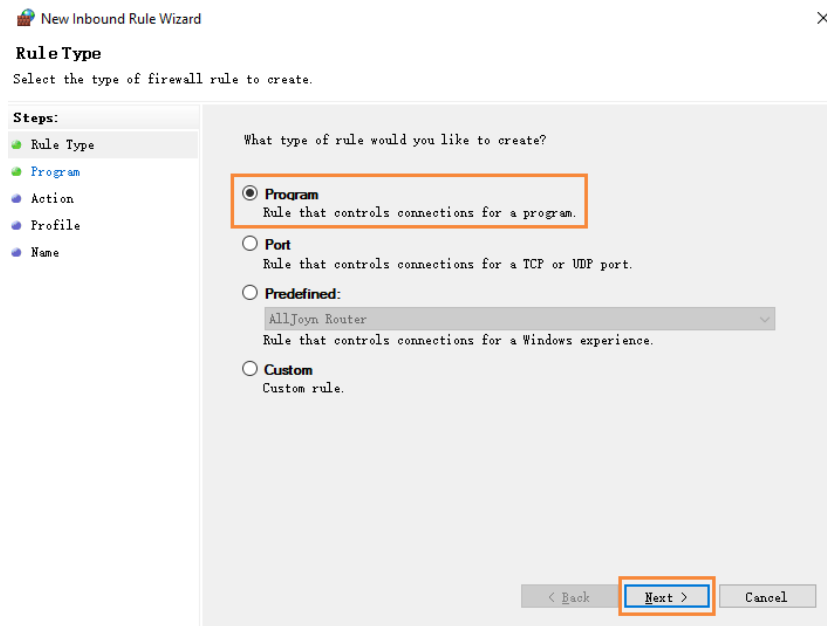
図7-2 インバウンドルール



手順 11 右側にある「New Rule」をクリックし、「New Inbound Rule Wizard」ダイアログボックスを開きます。

手順 12 「Program」を選択し、「Next」をクリックします。

図7-3 ルールの種類



手順 13 「Browse」をクリックしてローカルから「Proto.exe」を選択し、「Next」をクリックします。



図7-4 プログラムの選択



手順 14 「Allow the connection」を選択し、「Next」をクリックします。

手順 15 「Domain」、「Private」、「Public」にチェックを付け、「Next」をクリックします。

手順 16 名前を入力し、「Finish」をクリックします。

## 7.2 ローカル再生に対応のビデオ形式

ローカル再生に対応のビデオ形式は以下のようです。

\*.3g2、\*.3gp、\*.3gp2、\*.3gpp、\*.amv、\*.asf、\*.avi、\*.bik、\*.bin、\*.divx、\*.drc、\*.dv、\*.f4v、\*.flv、\*.gvi、\*.gxf、\*.iso、\*.m1v、\*.m2v、\*.m2t、\*.m2ts、\*.m4v、\*.mkv、\*.mov、\*.mp2、\*.mp4、\*.mp4v、\*.mpe、\*.mpeg、\*.mpeg1、\*.mpeg2、\*.mpeg4、\*.mpg、\*.mpv2、\*.mts、\*.mxf、\*.mxg、\*.nsv、\*.nuv、\*.ogg、\*.ogm、\*.ogv、\*.ps、\*.rec、\*.rm、\*.rmvb、\*.rpl、\*.thp、\*.tod、\*.ts、\*.tts、\*.txd、\*.vob、\*.vro、\*.webm、\*.wm、\*.wmv、\*.wtv、\*.xesc

そのうち、AVIはMPEG-2、MPEG-4、MPEG-4 ASP、H.264、DivX 4/5/6、XviD、SV1、3ivX D4、H.264/MPEG-4 AVC/MKV、AMR、WebM、WMV、MP3でエンコードするビデオにのみ対応し、DX50、MP4VでエンコードするAVIビデオは再生に対応しません。

ビデオ形式は対応しない場合は、プロ向けビデオ変換ソフトウェアを利用することをお勧めします。

## 7.3 一般スクリーンの折ウィンドウ制限

表7-1 折ウィンドウの再生制限パラメータ

再生ウィンドウサイズ (スケジュール解像度)	最大幅	3840px
	最大高さ	2160px
折数	横折：実際ディスプレイ幅/再生ウィンドウ幅≤8	

	縦折：実際ディスプレイ高さ/再生ウィンドウ高さ $\leq 8$
--	----------------------------------

## 7.4 超幅広スクリーンの再生パラメータ制限

表7-2 コンテンツを利用した再生限界値テスト

再生ウィンドウサイズ	最大幅	3840px
	最大高さ	2160px
折数	最大折数は 8	
走馬灯パラメータ	最大フォント	256px
	最大文字数	2000 文字
ビデオコンテンツ数 (解像度 × 個数)	以下 4 種類のビデオの同時再生可能数は次の通り (四者択一)。 4K × 1 1080P × 2 720P × 4 (480×50) × 6	
その他コンテンツ	なし	